

2011年大災害に立ち向かった 科学者達と大災害を振り返る

2011年を振り返ると、3月11日の大地震や9月の台風の紀伊半島への襲来など、昨年は未曾有の自然災害多発年であった。これらをきっかけとして、日本各地で「防災講座」が「雨後の竹の子」のように盛んになった。しかしそれらの多くはもっとも重要な「なにか」が欠けている。本シンポジウムは、その「なにか」を参加者の皆様に知っていただくために企画した。

本シンポジウムは一般の方を対象としており、特に、高校生、大学生、学校の先生等の教育関係者、地方自治体の防災関係者の参加を強く希望します。

日時：平成24年2月11日(土)

場所：ホテルグリーンパーク津 6F 葵の間

*参加無料
参加申し込み不要
(どなたでもお越しください)

プログラム

14:00 シンポジウムの趣旨説明

立花義裕 (三重大学大学院生物資源学研究科・教授)

14:10 災害最前線大学の対応と現場での放射能観測

渡辺 明(福島大学 副学長)

15:00 3月11日の最前線での津波

小田巻 実(三重大学大学院生物資源学研究科・教授)

15:35 紀伊半島に襲来した2011年台風12号とその予測

藤田 由紀夫(名古屋地方気象台 次長)

16:10 台風がもたらす大洪水の発生確率、「想定外」とは何か？

葛葉 泰久(三重大学大学院生物資源学研究科・教授)

16:30 ラジオゾンデによる台風の高頻度直接観測

立花義裕(三重大学大学院生物資源学研究科・教授)

16:55 三重県の高校における気象・地震・津波教育の現状と課題

奥田 光升(県立津高校教諭・物理・地学担当)

17:25 災害多発の時代を生き抜くために

— 自然科学から考える自助・共助・公助 —

福山 薫(三重大学大学院生物資源学研究科・教授)

17:45 総合討論

問い合わせ先：三重大学大学院生物資源学研究科 共生環境学専攻

立花 義裕 TEL :059-231-9590

059-231-9539

